吉

田

守 莮

君

作

曲

曙星瞬・ Mに秋添う時雨月 <sup>き あきそ</sup> しぐれづき 未明 く恋々と

遥<sup>は</sup>か

, に煙<sup>は</sup>

立るだが

紫し釣る 紺ぇ瓶ベ

瓶~

落さ

利と 鎌ぉ

の 0

きらめく

されど近づく蕭晨に しばし悄然と

幽ぉ はつのるせつなくも

払

暁

葉

原生林の錦虫 の情趣を知る二十 も 色家が

黒俊馬の長嘶に沈思破れ 蕭然秋の小糠雨

蜻蛉が翅翎に乗り場合の がりのでは、またい。 がりのでは、またい。 がいるできょうかえできます。 がいるできぐものできがれ ないるできぐものできがれ 門雨もやみてい の友を へと託すか 端に我が久懐 ながりない ないない ないない あ に 如ぎ かね さす な

情<sup>な</sup>さ

の露を探求むな

更

対か人の世

が 然

己ぉ が 7. 運<sub>だめ</sub> か斯くある 長庚にただ涙

地を秋き ただただ涙は何故 平 の で が の 百 子 も り って落つる流り の彼方へ冴見けるようではよったようである。 へ冴星空を ればし を